

地区スローガン：「Love Other Spirit ～繋ごう次世代へ 夢ある未来に向けて～」

クラブ方針：「豊かな心を持とう! 今こそ『絆』」

国際ロータリー第2790地区 第3グループ 千葉西ロータリークラブ Rotary Club of Chiba-West WEEKLY COMMUNICATION

創立 1976年1月20日 承認 1976年2月25日
 会長 今野 文明 幹事 本橋 和也
 例会場 千葉スカイウインドウズ 東天紅 センシティブタワー23階
 TEL 043-238-5555
 例会日 毎週火曜日 12:30～
 事務局 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階
 TEL 043-245-3202 FAX 043-245-7522
 E-mail : chibawestrc@wrpc.co.jp
 URL : https://www.chibawest-rc.net/

■ 会長挨拶 / 今野文明 会長

皆様、本日は大変お忙しい中、例会にご参加を頂き、誠にありがとうございます。

10月24日、世界ポリオデー・祈願プロジェクト事業として第3グループで千葉神社に祈禱して参りました。当クラブからは、私と本橋幹事と長坂国際奉仕委員長の三名で参加致しました。コロナの終息と今後のメンバーの安全、そして三ヶ国輪番制事業が無事開催出来ることを祈願させて頂きました。その時のお礼です、是非ご覧ください。

本日の例会には、海寶 PP のご尽力があり大変お忙しい中、土屋亮平パストガバナーをゲストにお招きすることが出来ました。昨年度の最終例会で「佐藤千尋全集」を十巻も頂き誠にありがとうございました。私は、諸岡ガバナー年度の研修委員会の打ち上げの席で、いち早く頂いておりました。大変な大作ですが、最後までしっかり読ませて頂き、勉強をさせていただきます。ありがとうございました。

私達は、なかなか土屋パストガバナーとお話する機会がございませんが、以前は毎年のように、地区野球リーグの納会に出席を頂いていたので、お会いする機会はよくありました。十数年前に、地区野球リーグに立派な優勝旗を寄付して頂き、今現在もその優勝旗を大切に使用して頂いております。残念ながら最近では、まったく手にする機会がありませんが、数年前は良く優勝をしていたので、時には私が持ち帰り当社に飾っておりました。やはり優勝旗は珍しいので、来客者が見てビックリしていました。是非とも、また優勝したいなと思っています。

また、2年前の諸岡ガバナー年度で海寶さんが地区理念研究委員長を務めた時に『地区先達と語る「私のロータリー」の集い』を開催した時の講師が、土屋パストガバナーでした。その時のお話を、私の本年度の「会長方針」を作成するにあたり、自分の頭中を整理するために、参考にさせて頂きました。そういった意味でも本日の土屋パストガバナーの卓話を楽しみにしておりました。どうぞよろしくお願い致します。

また来週の例会は、11月13日(土)へ振替例会となります。第3・第4グループ合同ロータリー情報研修会を「地区大会」同様、皆様にはこの東天紅で YouTube 配信を視聴して頂きたいと思っております。やはりこのコロナ禍の中「地区大会」と同じく現地参加は各クラブから会長、幹事の二名のみと制限されています。

当日は、渡邊岳仁副会長の開会のもと12時30分より食事をして頂き、現地の情報研修会は、13時00分点鐘です。鵜沢和弘ガバナーノミニーの職業奉仕についての講演が14時10分に終了致しますので、当クラブの例会は閉会となります。その後も情報研修会のセレモニーは16時00分まで続きますので、各自のスマートフォン等で視聴して頂ければと思います。

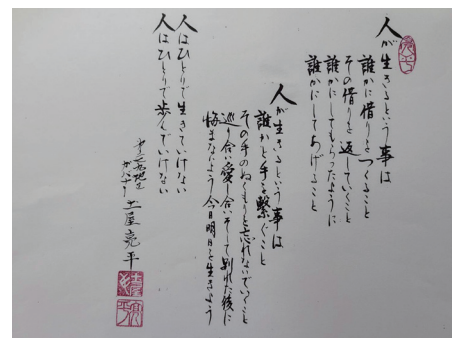
コロナが一日も早く終息し、次年度の情報研修会は、全員で参加出来ることを願っております。

以上で、本日の私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



■ 四つのテスト / 山本康昭 会員

「言行はこれに照らしてから」
 真実かどうか
 みんなに公平か
 好意と友情を深めるか
 みんなの為になるかどうか



■ お客様

土屋亮平 様 (国際ロータリー第2790地区パストガバナー)
 金 慧媛 さん (ロータリー米山記念奨学生)

■ 米山記念奨学金の授与ならびに近況報告

米山奨学生 金 慧媛 さん

皆様、おはようございます。どうぞ宜しくお願い致します。11月の近況報告です。奉仕活動の新たな発見と考えが変わりました。海の環境を守るために行った海岸清掃や、世界ポリオデーに参加し活動しました。最初は消極的な態度でしたが、綺麗になる海や皆様が優しい雰囲気を作って下さり積極的になれました。コロナの中で出来なかった交流を楽しみました。奉仕の深い意味や、色々な活動を行いたいと強く思いました。ありがとうございました。



■ 地区大会表彰

【ロータリー財団】

藤崎泰裕 ロータリー財団委員長

- ・100%ロータリー財団寄付クラブ
- ・Every Rotarian Every Year クラブ
- ・End Polio Now COA 感謝状

【ロータリー米山記念奨学会】

飯高喜代志 ロータリー米山記念奨学委員長

- ・寄付優秀クラブ
- ・個人平均寄付額優秀クラブ
- ・功労クラブ

【個人表彰】

- ・ロータリー米山功労者メジャードナー（第50回）山本康昭 会員



🎂 誕生祝い

友田直人、野口アキ子、須藤郁雄、今野文明、伊藤信一 各会員



【誕生祝いスピーチ】 野口アキ子 会員

皆様こんにちは、お久しぶりです。誕生日を迎えると思いたすことがあります。私は結婚の結納を行った日が誕生日で、この日に婚約指輪を頂きました。あの頃は大学卒の初任給が43,000円で、給料1ヶ月分の指輪をと言われて頂きました。忘れられない思い出です。ありがとうございました。

🍎 記念日祝い

津田英彦、宮川忠士、大森 薫、田中 智 各会員



【結婚祝いスピーチ】 宮川忠士 会員

皆さんこんにちは。今日は土屋パストガバナー、ようこそおいでくださいました。私は松戸の事業所へ行って8年になります。松戸市内でメーキャップさせて頂くと、千葉県一のお蕎麦屋さんでパストガバナーに御馳走になっています。私は昭和49年に結婚し結婚48年目になります。女房とは縁が切れなく仲良くやっております。息子と娘が片付き、これからも二人で長生きしようねと話しています。ありがとうございました。



■ 幹事報告

第5回定例理事会報告

議題・1月11日新年例会プログラムの件（ゲスト謝礼）承認

- ・忘年例会の件 承認
- ・千葉県のいのちの電話協会チャリティーコンサートクラブ協賛広告の件 承認

報告・千葉県のいのちの電話協会チャリティーコンサート企業協賛広告の報告

- ・ガバナー補佐訪問、ガバナー公式訪問の件
- ・第3・第4グループ合同情報研究会のご案内
- ・日本のロータリー100周年ビジョンレポート2020の報告、意見募集
- ・2022-23年度地区委員推薦の依頼
- ・第3グループ合同幹事会報告

■ 委員会報告

・野球同好会

地区野球リーグ結果報告本年度リーグ成績を報告致します。千葉西は4勝3敗で、見事4位となりました。ご声援ありがとうございました。リーグ納会は今月26日（金）、会場は有名なホテル・ザ・マンハッタンで開催されます。選手の皆さんはご出席を宜しくお願い致します。

・WRGゴルフ同好会

明日、今野年度2回目となります、第82回WRG大会がグリッサンド・ゴルフクラブにて賑々しく開催されます。8時前には受付を行いますので早めにご参集ください。豪華朝食付きです。宜しくお願いします。



■ ゲスト卓話 土屋亮平パストガバナー 「私のロータリー」

そもそもロータリーは学問ではありません。因って、何かを学ぶと言うものではないはず。

私達社会人が、社会生活、実業生活に於いて「どうなるべきか？ どう生きるべきか？」という生き方を、それぞれの立場なりに会得すると言う、即ち、『人生道場』と捉えるべきことではないでしょうか？ ロータリアンの一人一人は日常生活や社会生活において、生き方も暮らし方もそれぞれであるからでしょう。ロータリークラブも同様で在りましょう。クラブを構成しています会員により、ロータリーの捉え方は勿論のこと、宗教観と価値観も多様性に富んでいる筈です。その様なクラブこそ、寧ろバランスがとれた、安定性に優れたクラブと言えるのではないのでしょうか。

ロータリーの創設者である P・ポール・ハリスも、この様に回顧して居るでは在りませんか。

『一種類の花、一つ色ばかりの花壇に、何の面白さがありましょうか？ 色々あってこそ、人生に薬味がきくと言うものです』と言っています。

かつての良き時代のロータリーは、原則的に 1 つの職業から、1 名ずつの会員を選ぶ、即ち 1 業種 1 会員制を採用して居りました。それぞれ違った職業から 1 名ずつの会員を選ぶ良さは、花壇を彩る鮮やかさと同様に、ロータリーの多様性を遺憾なく発揮し、各ロータリアンがそれぞれのロータリー観をもつことに依って、自信をもって自己の職業の存在意義を自覚し、世界的に急速に発展を遂げた大きな要因になったのではないのでしょうか？

この様に 1 業種 1 会員制の原則を堅持し、且つ人種・宗教・国境・社会的地位等を問題としなかった事が、無造作に拡大を続けたこと、この多様性がロータリー発展の最大の要因であったと、言えるのではないのでしょうか？

1956 年 11 月 14 日千葉、市川ロータリークラブをスポンサーとして千葉県で 7 番目のクラブとして松戸ロータリークラブが誕生致しました。

私が松戸ロータリークラブに入会を認められましたのはクラブ創立 7 年目、1963 年 7 月、以来 58 年目になります。入会以来、無我夢中のロータリーライフであり、『ロータリーの綱領』を信じ、職業倫理の遂行一筋に過すことが出来たことは、私にとって誠に幸運と言う外ありません。

私が松戸ロータリークラブに入会して以来、私にとって適切な指導者、否、心底信頼に値する先導者であり良き人生の先達に巡り会えたからこそ、ロータリーの存在に心底感謝して居る次第で在ります。

1 度目の幸運な出会いの方ですが、私が松戸ロータリークラブに入会して 2 年目であり 1964(昭和 39)年、国際ロータリー第 358 地区のガバナーは神守源一郎様(東京東ロータリークラブ)でした。公式訪問の知識など勿論のこと、ロータリーの理解など程遠く、緊張だけが異常に高ぶっていたことは、今でも鮮明に覚えて居ります。当日、私はガバナーはおろか公式訪問等見当もつかぬままに、親睦委員長の指示の下『親睦委員会』のタスキを掛け 12 月の小雪がちらつく玄関で、今や遅しと待ち構えておりました。神守ガバナーを恐る恐る応接室にご案内し、お茶をお出ししとの付録付きで新入会員の悲哀をいやと言う程、痛感した次第でありました。

緊張で無我夢中の公式訪問では在りましたが、『ガバナーの特別講演』の神守ガバナーのご教示が素敵でした。稀に見る説得力があり、十二分に得心できました。手応えを感じましたのは、私ばかりでは在りますまい。

教えを受けた第 1 は『ロータリーの綱領』です。綱領とは、ロータリーにとって最も大切なところ。綱領の「綱」は『綱アミ』締める丈夫な太い『綱ツナ』を指します。勿論、このツナは強靱でシッカリして居なければなりません。

次に、綱領の「領」の偏の『令』はスッキリとした清らかな御告げを意味します。一方、傍の『頁』は腰や首筋と言った、人間にとって最も重要なところを指します。これらを締めくくって綱領の真意は、人間にとって最も重要で大切な部分を指すことから転じて「物事の最も重要なところ」と示唆されました。「要するに『ロータリーの綱領』とは、ロータリーにとって最も重要な部分を、シッカリと締めくくる大綱である」と綱領を説かれ、公式訪問の特別講演をなさいました。

後半のクラブ協議会で神守ガバナーは、次の様に職業奉仕委員長の発言に対し、見事な補足解説されました。正に『目から鱗』神守ガバナーは一言『職業奉仕とは一言・商売繁盛の秘訣』と示唆しました。

第 1 に、一生懸命お客様に尽くすよう、専念しなさい。必ず、成功します。これが職業奉仕の全てです。

第 2 に、社員に、この気概を職場に広めることが、必ず社員自身に還元されるということを悟らせなさい。

第 3 に、この精神を同業者は勿論、異業者の世界にも広めることが、社会の改善に繋がり、住み良い社会の創造に繋がるのだと悟らせなさい。これがロータリアンの責務であります。言い換えれば、自己の職業に誇りを持つこと。愛情を持つこと。責任を持つこと。これが職業奉仕の全てですと仰られました。

『つまり、お客様にどれだけ、感動して頂けるか、どうかに尽きます。此れぞ、ロータリーの職業奉仕の全てです』。実践から得られた体験を通じて『簡にして妙』職業奉仕をいともたやすく取り組める様に、ご指導下さった神守源一郎様に終生感謝をしている次第で在ります。

それ以来、私の「ロータリーの根本原理」は職業奉仕の実践在るのみと信じ「如何に商売繁盛への努力を積み重ねられるか。その結果は、お客様にどれだけ喜んで頂けるかが全てである」と信じ、自信をもって実験し続けて居ります。

京都に一燈園と言う托鉢を行う宗教団体があります。その団体の講師・石川洋氏の講演を拝聴致しました。演題は『西陣織り』を題材とした正に『変えては、ならないもの。変えなければ、ならないもの。』でありました。講演の内容はと申しますと「世の中には、変えなければ、ならないもの。変えては、ならないもの」が在ります。『西陣織り』に例えますと、織物には縦糸と横糸があります。縦糸と云うものは、無地であり、強靱であり、この縦糸の強靱さは普段は外からは見る事は出来ません。又見える様であっては布地はボロボロで役立ちません。其れに対し、横糸は美しく彩られて居り、その上その時代・時代に即応して、限り無く艶やかであり、華やかでなければなりません。しかし、このきらびやかさや、美しさも、外見からでは見ることが出来ない強靱な縦糸と言う裏付けがあってこそ映えるのです」と述べられました。この『縦糸と横糸』の話を引用致しまして、『ロータリーには縦糸と横糸が存在します』、ロータリーに於ける縦糸とは、『綱領』即ち『ロータリーの理念』であります。理念には確固たる鉄をも貫く『理念の強靱さ』が必要であり、個々の会員が誇りを持って心にシッカリと秘め、積極的に実践することが重要で在ります。



これに対しロータリーの横糸とは『諸々の奉仕の手法』であります。

いつの時代にも即応する華やかであり、艶やかでなければなりませんと説いたので在ります。

当時、あれ程に強く訴えた横糸であるべき各クラブ独特の奉仕は、その個性的艶やかさは薄れて来て居ないでしょうか？ 国際ロータリー上層部により作成された画一的に割り当てられた奉仕一色に甘んじていないでしょうか？ 強靱であるべき筈の、目的（綱領）が蔑ろにされ、縦糸の使命も心細くなって来て居ることを、危惧せずには居られません。

綱領が難解であると言われる箇所は、率直に言って『奉仕の理想』で在りましょう。『奉仕の理想』を『奉仕の理念』と言い換えたからと言って、判り易くなったと言えるでしょうか？ 疑問が残ります。私は『奉仕の理想』の理解を「相手の立場になって思い遣り、相手の立場になって行動する」即ち、『思い遣りの心』と理解するに至って居ります。

2 度目の幸運な出会いはロータリーを通じ、人生の師匠に巡り遇えた事です。国際ロータリー第 2790 地区大会で演題「やさしいロータリーの話」をなさった国際ロータリー第 2580 地区佐藤千寿パストガバナーでした。

「儲かるとは、損をする人が居るから、儲かるのである。即ち、儲ける人と損をする人が居てバランスがとれるのである。其れが皆が儲かっていると言うことは、皆が損をしていると解すべきだ」と毎日の様に「バブル崩壊」に警告され続けて居られました。それ以来、昵懇にして頂き、人生の歩み方、仕事への取り組み方、会社経営のあり方とあらゆる面で、ご教授を頂き、正に人生の『師』でありました。

佐藤千寿様は一人のロータリアンの立場から、一職業人として自己の職業観を次の様に捉えられ、諭されました。「職業と言うものには人格がありません、取って人格を付けるとしたら、その企業の経営者に外なりません。経営者自身が己の人格を正しくすると言うことは、つまりは企業経営の姿勢を正すことであります」具体的に言えば、自己の仕事に取り組む姿勢は「ロータリー精神を貫くこと」即ち、「思い遣りの心を更に高め、昇華（アウフヘーベン）させ、世の中に道德心を広めていくこと」に外なりません。晩年、よく色紙に『大道無難』と書かれ、人生と言うものは遠回りでも、『王道』の真ん中を堂々と歩むのが、一番の近道であると注釈を付けられて居りました。

3 度目の幸運なる出会いは『奉仕の理想 (Ideal of Service)』の裏付けを得たことでした。

ロータリーに入会して 26 年目、1988 年 7 月 1 日、国際ロータリー第 2790 地区ガバナーを勤める初日の事であります。

当時は新ガバナーを激励する会が、毎年東京プリンス・ホテルで開催されて居りました。当時は元理事がロータリーに関する講演をされるのが慣例でありました。

当日のガバナー会での講演者は、韓国の CKO 元理事でした。講演の最後に、一つの詩を朗読されたのです。

「人が生きると云う事」

人が生きると云う事は誰かに借りを作る事 その借りを返していく事 誰かにして貰った様に誰かにしてあげる事
人が生きると云う事は誰かと手を繋ぐ事 その手の温もりを忘れないで行く事 巡り合い、愛し合い別れた後に悔やまない様 今日、明日を生きよう

人は一人で生きて行けない 人は一人で歩んで行けない。

この詩は、亡くなった永 六輔氏の詩と聞きました。 ー〔作詩者、永 六輔氏〕ー

私はガバナー就任時『ロータリーの綱領』の中の『奉仕の理想』を「相手の立場に立って思い遣り、相手の立場になって行動する」と漠然としか捉えられませんでした。

この『人が生きると云う事』と言う詩が『奉仕の理想 (Ideal of Service)』の解釈を決定付けました。

即ち、『奉仕の理想』を『情けは人の為成らず』と決定付けた次第です。

因って、公式訪問時に全てのクラブで『人が生きると云う事』を朗読した次第です。

以上、3 題話を申し述べましたが、要するに。

1) 職業奉仕とは、各ロータリアンが自己の職業の繁栄を願い努力し、真剣に励む。其れを世間に広めることにより、住みよい社会を創造すること。

2) ロータリアンとして、常に正々堂々と王道を歩み続けること。そして、初心を貫くことが、全てに優ると悟り、実践すること。

3) 『人は一人で生きて行けない』他人と助け合って生きていく外はないと悟るべきである。

と言うのが、私とロータリーとの出会いであり、私がロータリーと取り組む姿勢であり、私がロータリーを説く主張なのであります。

そのロータリーが説く職業奉仕こそがロータリーの金看板であり、ロータリー独特の主義主張なのであります。

私達のロータリーの根本原理は何であったか、今一度問い直す必要は急務であります。

私の人生の師匠でありました第 2580 地区パストガバナー故佐藤千寿様はよく仰って居た『原点に還れ』であります。真の主張は『初心忘れるべからず』即ち、創業当時の素直で、純粋であった初心を思い起こせと言う叱咤であります。

これから申し上げますことは、若いロータリアンの皆様方へ、絶大なる期待を込めてのお願いであります。常に身近に在り過ぎ、見落としがちで在りますが、毎月号の『ロータリーの友』誌の 6 ページをご覧ください。「ロータリーの誕生とその成長」と言う記事が掲載され、次の様にロータリーの変遷、根本原理を易しく正確に記述されて居ります。

「青年弁護士ポール・ハリスはこの風潮に堪えかね、友人 3 人と語らって、お互いに信頼のできる公平な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係に発展するような仲間を増やしたい、という趣旨でロータリークラブという会合を考えました。こうして 1905 年 2 月 23 日にシカゴロータリークラブが誕生しました。それからは、志を同じくするクラブが、次々各地に生まれて、

これら世界中のクラブの連合体を国際ロータリーと称します。

このように、歴史的に見ても、ロータリーとは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりなのです。

ロータリークラブの最大の特質は実業人、職業人の組織であり、職業人としての誇り、会員相互の親睦など再確認すべきであります。これらの理論的根拠は何処にありやと問われるならば、『手続き要覧』の第 1 部ロータリーの使命の遂行・1 基本理念・「社会奉仕に関する 1923 年の声明」にありと明言致します。

そもそも、この声明文の発端の由来は、今から約 100 年前に遡ります。

シカゴ・ロータリークラブの第2代目・ミード会長が地域社会への奉仕を強調した結果、『身体障害児・救済運動』に端を発し、全く慈善団体と変わらぬクラブが出現した結果、行動派と理論派間で大論争が展開してしまいました。

国際ロータリーが抱えた創立以来の最大の論争であり、ロータリー分裂はおろか、存亡の危機まで危ぶまれるに至って仕舞いました。

其処で、ポール・ハリスは「次年度 1923 年のセントルイス大会に於いて、この『身体障害者養護学校』の設置運動が、どの様な枠組みで実施されたならロータリーの理論派の理論と合致出来るか、結論づけましょう」と提案しました。1923 年セントルイス大会決議『社会奉仕に関する第 34 号議案』が、大会決議委員長ナッシュヴィル・ロータリークラブ会長・ウィル・メイヤーの下に提出されました。その内容はと申しますと、何故、ロータリーを必要とするか？

クラブの奉仕活動は完全に自主・独立性を有するもの。他のロータリークラブに干渉してはならない。他のロータリークラブの実験例を軽視、無視してはならない。審議の結果、見事に「理論派、行動派双方の主張を巧みに噛み合わせ、初期ロータリーの試行錯誤の総決算」を果たせたのであります。2010 年 1 月の RI 理事会に、ビチャイ・ラタクル元 RI 会長より『社会奉仕に関する 34 議案』がその重要性の観点から、今後の『ロータリー章典』・『手続要覧』に掲載する事が提案・決定されました。2010 年 6 月の理事会で『社会奉仕に関する 34 議案』を今後の『ロータリー章典』・『手続要覧』に含むこと。その声明文に反対する如何なる見解も、もはやロータリーの原理として受理しないこと。続けて、その声明文を歴史的として言及する文は、その声明文の価値を失わせる可能性がある」と指摘した。因って、理事会はその言葉、即ち、歴史的として言及するのを取り除き、全文を章典に復活させることを推奨した。

ビチャイ・ラタクル元 RI 会長の登場により『社会奉仕に関する 34 議案』の存在価値が明確に決定付けられ『社会奉仕に関する 34 議案』の存続に順風が吹き始めたかに思われますが？

何か起こったのか、私の程度では理解し兼ねます。まして、ビチャイ・ラタクル元 RI 会長は 1926 年のお生まれです。現況の RI の勢力分布と申しますと、言わずと知れた絶対的行動派の世界であります。ましてや、当時と比べて理論派と行動派の力量の差は言わずもがな。組織の分裂につながる程のエネルギーは、ロータリーには最早期待出来ません。諸子百家の一人・莊子に『忘桎』という言葉があります。「魚ヲ得テ桎ヲ忘レル」目的を達して仕舞うと、その為に尽くしてくれたものの恩を、蔑ろにして仕舞う譬えで在ります。恩を忘れたばかりでなく、仇で返すとは、正に人の道に反すると、言うべきで在りましょう。

いずれにせよ、『社会奉仕に関する 34 議案』の重要性を再認識する事が、ロータリーの未来を予測し、此れからのロータリーの歴史を刻んで行ける唯一の道と信じます。

その根幹に在る初期ロータリーに於ける、他に類を見ない特質である『深遠なる哲理』と『輝かしい実践の金字塔』の真価が問われるのではないのでしょうか。

今、正に第 2 回目のロータリーの存亡の危機にあると自覚し、その打開策として、全ロータリアンが『ロータリーの初心』に立ち返ることです。

初期ロータリアンの如く、純粋で、誠実さに満ち溢れ「職業倫理の高揚を図ることが、自ずと自己に還元されることを信じ、職業倫理の向上に責任と誇りを以て励むこと。

定款・細則等の諸規定単純化に務め、『奉仕は親睦より生まれ、奉仕は親睦により磨かれる』に立ち返ること。そして、われわれの責務は、『先人達が築いてくれた、ロータリーの精神と、その哲理を次世代に継承させる』にあると信じて止みません。

ご静聴感謝致します。

ニコニコ BOX

- ・土屋亮平様…お久しぶりです。
- ・海寶…土屋バスターガバナーのご来会、卓話を頂き感謝です。
- ・宮川…土屋バスターガバナー卓話ありがとうございました。
- ・大森…結婚祝いを頂きありがとうございます。
- ・藤崎…土屋バスターガバナー様、ありがとうございました。
- ・今野…土屋バスターガバナー、本日は大変お忙しい中、貴重な卓話を誠にありがとうございました。また、誕生祝いを頂きました。
- ・野口アキ子…最近、日が暮れるのが早くなって参りました。この程は素敵な誕生祝いを頂きありがとうございました。
- ・須藤…鎮まっています!コロナめ。
- ・川城…良いことがありました(^^)
- ・友田…誕生祝いをありがとうございました。
- ・遠藤あけみ…立冬も過ぎて、冬到来間近となりました。皆様、ご自愛ください。
- ・長坂…土屋バスターガバナー、本日はありがとうございます。佐藤全集一生懸命読んでいます。
- ・高橋…あいにくの雨ですね、気をつけてください。
- ・中村…お弁当のご注文をありがとうございます。
- ・持田…いつもありがとうございます。



千葉西ロータリークラブ	総 数	本日の出欠席	出 席	前々回の修正	メーキャップ	本日の出席率	ニコニコBOX	本日の合計	次週プログラム	■ 次週プログラム 11月16日(火) → 13日(土)へ振替 12:00 食事 13:00 点鐘 第3・第4G合同ロータリー情報研修会視聴 千葉スカイwindウズ 東天紅
	48 名		36 名		1 名	80.00 %		53,000 円		
	対 象 者		欠 席		欠 席	前々回の出席率		本年度累計		
	45 名		9 名		9 名	80.43 %		423,000 円		
クラブ広報・ロータリー情報委員会 【委員長】桜井隆宏 【副委員長】海寶勘一 *高橋健一郎 【委員】嶋田 悠 *野城隆憲 *北村悠介 *中村武弘 *川崎美嘉子										